



書誌
年鑑

2020

有木太一
編

凡 例

I 収録範囲

1 期間

日本で発表された各種の文献目録すなわち書誌のうち、2019年1月から12月までに発表されたもの、およびそれ以前の発表で『書誌年鑑』に掲載できなかったもの、合計9,595点(キーワード件数)と書誌解説16点を収録した。

2 内容

書誌は文献のリストなので、博物館などが編集・発行する動植物・鉱物の目録はもちろん対象外であるが、書誌の一分野である文書目録も対象外としている。近年地方・中央で多くの文書館が開設され、中世・近世・近現代の文書が多数発掘・保存される情勢となったので、本書では、文書目録の収集や目録化は、新しく大きく形成されてきた文書館界に任せるのが妥当だと考えている。本書収録の書誌は、文献探索上で書誌が必要とされる、人文科学・社会科学・生活科学の範囲のものにおおむね限られている。

3 採録

本書の編者が新刊の図書資料・雑誌から日常採録した書誌に、日外アソシエーツにおいて収集したデータから編者が選択・現物確認した書誌を加えている。

II 配列方法

1 「書誌目録」では、上記の書誌記述から件名・人名・地名・誌名などのキーワードを選定し、その五十音順に配列している。

2 「書誌解説」では、本書収録の書誌から、主題・形式などに特色のあるものを選択した。配列は解説者名の五十音順とし、同一解説者内ではキーワードの五十音順とした。

3 キーワード五十音順の配列においては、濁音・半濁音は清音とし、ヴ→ウ、ヂ→シ、ヅ→スとした。促音・拗音も直音とし、長音符(音引き)はアの前とした。

III 記述形式

1 キーワード

第1キーワードはゴシック体で表示。第2キーワードは「⇔」の後に続けて明朝体で表示し、同一記述を第2キーワードの位置にも副出した。

2 図書単行書誌

【書名 副書名 巻次】 発行所名 ☆
(著編者名) 発行年月 総頁数 判型

*図書単行書誌では、書誌表示を☆印とした。

*総頁数は、別頁があり記述が長くなる場合には合計数としていることがある。

*発行所名欄は下記のように省略した(以下3、4でも同様)。

○大学 → ○○大 ○短期大学 → ○○短大

○教育委員会 → ○○教委

3 図書収録書誌

【書名 副書名】(著編者名) 発行所名 書誌表示
<収録書誌編者名> 発行年月 始-終頁

4 雑誌掲載書誌

「誌名 巻.号.通号」 発行所名 書誌表示
<掲載書誌編者名> 発行年月 始-終頁

*雑誌全体の編者名(団体・個人)は省略した。

5 書誌表示

参考文献・引用文献・著書目録・著作目録・文献目録・業績・年譜など。長いものは短縮した。

6 頁記述

p: page f: front b: back r: random

pf: 前付部分に書誌があって、頁付がない場合。

pb: 後付部分に書誌があって、頁付がない場合。

pr: 前付・後付以外の部分に書誌があって、頁付がない場合。

p1-3f: 前付部分に書誌があって、頁付がある場合。

p1-3b: 後付部分に書誌があって、頁付がある場合。

pr: 各章節末に書誌がある場合。

*連載ものは初回の掲載頁のみを記載した。

この本の使い方

1. アペリティフ

すでにご存じとは思いますが、書誌とは何であるかをまず確認しておこう。ざっくり言えば、書誌とは「本の選手名鑑」である。

野球やサッカーなどのプロスポーツ、あるいはAKBや坂道などアイドルグループには、「選手名鑑」「メンバー名鑑」といった本（ないし冊子）がある。運営会社など興行側でつくる公式本、一般の出版社や個人がつくる非公式本の別を問わず、スポーツなら各チームの選手について、アイドルならそのグループのタレントについて、プロフィールが紹介されている。単独で1冊にまとめられるほか、雑誌の特集記事や付録になったり、一部公営ギャンブルでは無料配布されることもある。

書誌はこれらと似ている。選手名鑑には、あるチームが試合で勝利することを目標として集められた選手の、氏名・出身地・生年月日・背番号・ポジション・身長・体重といった情報が出ている。これと同じように、書誌には、あるテーマを究明することを目標として集められた本の、書名・著者名・刊行年月・出版者（社）といった項目が掲載されている。チーム＝テーマに則って、選手＝本が紹介されている。書誌によって、あるテーマを明らかにするための本を知ることができる。

当『書誌年鑑』は、「書誌」というテーマに基づいて、書誌＝本の選手名鑑を集めた本。このことから“書誌の書誌”と呼ばれている。これにより、どんな「本の選手名鑑」が出ているかがわかり、あるテーマについて知りたい／調べたいと思った時に、どの本を読んだらよいかの指針となるのである。こうした用途を補うものとして、図書館にはOPAC（オンライン蔵書目録）が普及しているが、OPACではその館で所蔵しているものしか検索できないし、また隣接領域の文献がたまたま目に入るといっても生じないので、プラスアルファの効果は生まれにくい。

大学に入学すると、学術論文やレポートの作成についてオリエンター

ションを受けると思う。そこでよく言われているのが、学術論文の脚注から芋づる式に参考文献を探し求めるというやり方である。ところが、この方法はかなりの労力を要する。脚注には参考文献以外の内容も含まれており、文献の書誌情報だけをまとめようとしても余計なノイズが多いからだ。そもそも「論文」にどのように行き当たればよいのか。

そういう時に、まず『書誌年鑑』を手にしていただきたい。書誌＝文献一覧がテーマ別に多数並んでいる。読者は文献を探索する際にまず本書を使うことで、芋づるをたぐり寄せるエネルギーが軽減できるのである。

というわけで、当『書誌年鑑』は、単に物事を知る・調べることから一歩進んで、よりクリエイティブに、イノベティブな論文やレポートを生産するための本であると言える。

2. プラ

『UFO』（ピンク・レディー）や『もしもピアノが弾けたなら』（西田敏行）など、数々のヒット曲で昭和の時代を風靡した、作詞家の阿久悠氏について調べてみよう。

本書『書誌年鑑2020』で、見出し語「阿久悠」を探してみると、7頁に1件が掲載されている。それを見ると、河出書房新社から2019年7月に刊行された『「歌だけが残る」と、あなたは言った—わが父、阿久悠』という本（深田太郎著）の、192-194頁に「参考文献・資料」という形で書誌が載っているとわかる。さらに、関連ありそうな「流行歌」も本書で引いてみると、473-474頁に3件見つかった。「作詞」「作詞家」などは見つからなかった。

今ここで出てきた合計4冊の本を読むだけでも、阿久悠氏についてそれなりの知識は得られるのであるが、それでは本書を「使いこなした」とは言えない。本書で検索しても、書誌が掲載されていない本の情報は抜け落ちているからである。テーマ別にどんな文献が出ているかを知りたいだけなら、『日本件名図書目録』などテーマ別文献索引、あるいは図書館OPACのキーワード検索を使えば足りる。

本書の真の出番は、その先にある。本書は“書誌の書誌”であるので、

【あ】

- | | | | |
|---------------------------------------|--|--------------------------------|------------------------------------|
| 「アーサー王伝説」
⇨サブカルチャー | 『いかにしてアーサー王は日本で受容され
サブカルチャー界に君臨したか—変容する
中世騎士道物語』（岡本広毅ほか） | みずき書林
2019.3 | 参考文献
pr |
| 「アート・アラウン
ド・タウン」
1952.10-1976.1 | 「言語文化研究 17」〈桑原規子〉 | 聖徳大
2019.3 | 総目録
p53-71 |
| アートドキュメン
テーション | 「アート・ドキュメンテーション研究 26」
〈JADS文献情報委員会〉 | アート・ドキュメ
ンテーション学会
2019.5 | 文献目録
p56-68 |
| アートマネジメ
ント | 『アートプロジェクトの可能性—芸術創造
と公共政策の共創』（谷口文保） | 九州大出版会
2019.10 | 参考文献
p295-302 |
| アーバンヴィレッ
ジ代官山 | 『HILLSIDE TERRACE 1969-2019—
アーバンヴィレッジ代官山のすべて』（前
田礼ほか） | 現代企画室
2019.11 | パブリシテイ
一覧ほか
p390-398,
421 |
| アームストロング,
N. | 『ファースト・マン—初めて月に降り立った
男、ニール・アームストロングの人生 下』
(J. R. ハンセン) | 河出書房新社
2019.1 | 参考文献
p1-29b |
| アーレント, H. | 『ハンナ・アーレント—屹立する思考の全
貌』（森分大輔） | 筑摩書房
2019.6 | 参考文献
p277-282 |
| アーレント, H.
⇨ショーレム, G. | 『アーレント=ショーレム往復書簡』(H.
アーレントほか) | 岩波書店
2019.11 | 参考文献
p13-26b |
| 阿壘 | 『南京—抵抗と尊厳』（阿壘）〈関根謙〉 | 五月書房新社
2019.10 | 年譜
p390-394 |
| アイ(藍) | 『地域資源を活かす生活工芸双書 藍』（吉
原均） | 農山漁村文化協会
2019.8 | 引用参考文献
p125-126 |
| 愛 | 『愛』（苦野一徳） | 講談社
2019.8 | 引用参考文献
p219-221 |
| IoT | 『俯瞰図から見える日本型IoTビジネスモ
デルの壁と突破口』（大野治） | 日刊工業新聞社
2019.2 | 参考文献
p193-197 |
| IoT
⇨経営計画 | 『戦略的IoTマネジメント』（内平直志） | ミネルヴァ書房
2019.2 | 参考文献
p280-281 |
| IoT
⇨情報と社会 | 『データ・ドリブン・エコノミー—デジタル
がすべての企業・産業・社会を変革する』
(森川博之) | ダイヤモンド社
2019.4 | 参考文献—覧
p287-290 |
| IoT
⇨情報家電 | 『よくわかる最新スマートデバイスのトレ
ンド予測—デバイスの進化がもたらすIoT
の近未来!』（西垣和紀ほか） | 秀和システム
2019.12 | 参考文献
p221-222 |
| 会沢正志斎 | 『近代日本国体論の研究—会沢正志斎と考
証学』（関口直佑） | 国書刊行会
2019.12 | 著作—覧
p383-386 |

会津八一	『コレクション日本歌人選 68 会津八一—奈良大和を愛し、古寺巡礼の歌を詠う』(村尾誠一)	笠間書院 2019.1	読書案内 p120-121
会津藩 ⇨青森県史	『会津藩落城・流転—会津から斗南に移った二少女の体験記に寄せて』(葛西富夫)	津軽書房 2019.2	参考文献 p282-284
「愛知きわみ看護短期大学紀要」1-11 (2005.3-2015.7)	「愛知きわみ看護短期大学紀要 13」	愛知きわみ看護短大 2019.3	掲載論文一覧 p21-30
愛知県 ⇨障碍児教育	『障害児教育福祉の通史—名古屋の学校・施設の歩み』(小川英彦)	三学出版 2019.3	参考引用文献 p130-134
愛知県	『街道今昔佐屋路をゆく』(石田泰弘)	風媒社 2019.5	参考文献 p153-154
愛知県 ⇨農業技術	『三河の農書』(有蘭正一郎)	シンプリ 2019.7	史料文献一覧 p65-67
愛知県 ⇨イワシ漁業	『イワシと愛知の水産史』(片岡千賀之)	北斗書房 2019.11	参考文献 p109, 118, 148
愛知県史	『愛知県史 通史編4 近世 1』	愛知県 2019.3	引用参考文献 p728-743
愛知県史	『佐屋物語—登録有形文化財鈴木仙太郎家の暮らしと住まい』(石田泰弘)	ブックショップマイトウン 2019.4	参考文献一覧 p196-201
愛着 ⇨依存症	『愛着障害としてのアディクション』(P. J. フローレス)	日本評論社 2019.1	文献 p295-306
愛着 ⇨精神医学	『ネオサビエンス—回避型人類の登場』(岡田尊司)	文藝春秋 2019.11	参考文献ほか 4pb
愛着障害	『アタッチメントの精神医学—愛着障害と母子臨床』(山下洋)	日本評論社 2019.6	参考文献 p203-224
愛着障害	『愛着障害・愛着の問題を抱える子どもをどう理解し、どう支援するか?—アセスメントと具体的支援のポイント51』(米澤好史)	福村出版 2019.8	引用文献 p153-155
愛着障害	『死に至る病—あなたを蝕む愛着障害の脅威』(岡田尊司)	光文社 2019.9	参考文献 p230-225
愛着障害	『愛着障害児とのつきあい方—特別支援学校教員チームとの実践』(大橋良枝)	金剛出版 2019.12	参考文献 p185-188
アイデンティティ ⇨青年心理学	『青年期における自己変容に対する志向性の個人差と発達の变化』(千島雄太)	風間書房 2019.1	引用文献 p139-151
アイデンティティ	『自己概念のゆらぎ—対人関係におけるその分化と変動』(福島治)	知泉書館 2019.2	引用文献 p179-198
アイヌ ⇨育児	『アイヌ民俗技術調査 10 育児に関する民俗技術』(藤村久和)	北海道教委 2019.3	参考引用文献 p309-311
アイヌ ⇨祭具	『海を渡ったイナウアーアイヌと和人の文化交渉史の研究』(今石みぎわ)	東京文化財研究所 2019.3	参考文献 pr

アイヌ ⇨漆器	『アイヌの漆器に関する学際的研究』(浅倉有子)	北海道出版企画センター 2019.3	参考文献 pr
アイヌ ⇨マンガ	『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』(中川裕)	集英社 2019.3	ブックガイド p250-251
アイヌ	『アイヌ近現代史読本 増補改訂』(小笠原信之)	緑風出版 2019.4	参考文献 p298-304
アイヌ ⇨人権	『アイヌの法的地位と国の不正義—遺骨返還問題と〈アメリカインディアン法〉から考える〈アイヌ先住権〉』(市川守弘)	寿郎社 2019.4	参考文献 p223-228
アイヌ	『アイヌ、日本人、その世界』(小坂洋右)	藤田印刷エクセレントボックス 2019.5	参考文献 p223-232
アイヌ ⇨旭川市	『旭川市におけるアイヌ民族の現状と地域住民—2018年アイヌ民族多住地域調査報告書』(小内透)	北海道大 2019.7	参考文献 pr
アイヌ ⇨工芸美術	『アイヌの美しき手仕事—柳宗悦と芹沢銈介のコレクションから』(北海道立近代美術館ほか)	アイヌ民族文化財団 2019.11	参考文献 p258-259
アイヌ語	『神々の言語学 続・続 あなたもアイヌ語つかってます』(大出あや子)	百年書房 2019.10	参考文献 p138-139
始良市	『始良市誌 1 先史・古代編自然編』(始良市誌編集委員会)	始良市 2019.3	参考文献 pr
アイルランド	『アイルランドを知るための70章』(海老島均ほか)	明石書店 2019.4	文献ほか p352-361
アインシュタイン, A.	『アインシュタインの旅行日記—日本・パレスチナ・スペイン』(A. アインシュタイン)	草思社 2019.6	参考文献 p353-338
アウグスティヌス, A.	『アウグスティヌス『神の国』を読む—その構想と神学』(金子晴勇)	教文館 2019.12	参考文献表 p1-4b
アウシュビッツ強制収容所 ⇨ホロコースト	『アウシュビッツの巻物—証言資料』(N. チェアほか)	みすず書房 2019.5	参考文献 p11-26b
アウトサイダー・アート	『アール・ブリュット』(E. シャンブノワ)	白水社 2019.7	参考文献 p2-3b
アウトサイダー・アート	『障がい者アート—「展覧会」と「制作活動」の在り方』(成田孝)	大学教育出版 2019.8	参考文献 p187-196
青野繁治	「言語文化研究 45」	大阪大 2019.3	業績 p1-2
青野太潮	『イエスから初期キリスト教へ—新約思想とその展開—青野太潮先生献呈論文集』(日本新約学会)	リトン 2019.9	業績一覧 p12-22
青森県 ⇨経済	『変化する青森県の経済と産業』(青森地域社会研究所)	東奥日報社 2019.3	参考文献 pr
青森県 ⇨地域開発	『ポスト地方創生—大学と地域が組んでどこまでできるか』(平井太郎)	弘前大出版会 2019.3	文献 pr

大江健三郎 『大江健三郎書誌稿 2019年増補版』(森昭夫) 能登印刷 2019.12 3冊 B5

本書は、第一部の「著書目録」344頁、第二部「初出目録」466頁、第三部「文献目録」241頁の3冊から成り、合わせて1000ページを超える膨大なものである。編者は1938年生まれで、石川県白山市(旧松任市)在住。第一部冒頭の「はしがき」(2002年)には大江の書誌を志して《随分時間が経った》とあり、編者にとってはライフワークなのであろう。最初の『大江健三郎書誌稿』は、第一部を2002年に刊行し、以後第二部2004年、第三部2010年と、8年かけて3冊を発行した。その後、2014年に増補版、2017年に「2016年増補版」を、いずれも3冊組で刊行している。

第一部は一般的な単行書誌のイメージどおりで、文献番号/書名/ジャンル/叢書名/《奥付》/《造本》/《構成》。最後の3項目は其中でさらにあらゆる項目を網羅しており、大江の本について分からないことはないほどの網羅ぶりである。第二部の「初出目録」は、ある小説なりエッセイなりが最初に掲載された紙誌を記録し、別の媒体に転載された時にはそれも記す。「付録B」の年表は、ジャンル別に配列した初出目録をバラして日付順にしたもの。第三部は大江についての特集や論考を集めたもので、こちらは一般的な図書の参考文献一覧のスタイルに近い。各図書の掲載ページがx-yの形で網羅されており、書誌として気持ちが良い。索引は3冊すべてに五十音順で付されている。

さて、編者は、本書の最初の版から組版ソフト「LaTeX」(ラテック)を自前で導入して制作してきたという。かなりの苦労があるようだが、残念ながら、第二部p267からの「付録A 大江健三郎著書総覧」に、このことに由来すると思われるミスがある。付録Aの特に前半は第一部「著書目録」のダイジェスト版に相当するが、文献番号200番台の「評論・エッセイ」は、途中から第一部と合わなくなっているのだ。217番までは第一部と第二部が対応しているが、第二部の218に、第一部に収録されていない1冊が挿入されており、ここから一部と二部がズレ始める。以下、第二部では222と241に「岩波ブックレット」が挿入、逆に第一部の262と263の2冊は第二部では欠けている。第一部の末尾『大江健三郎・柄谷行人全対話』には文献番号が付されていないが、第二部では267番が付番されている。これらは、ほぼ同じ内容のものを組版した状態で別個に保存していて、データを追加する際にどちらか片方だけに留まったものであろう。この種の齟齬は相当に注意を払っていても起こり得るので、組版以前にデータの管理を厳重に行っておくべきであった。データはデータとして管理し、組版は必要に応じてその都度行った方がよいだろう。なお、第一部の著書目録では、冒頭の書名と文献番号を太字ゴシック体とし、他を明朝体としたのは良いが、左端を一直線に揃えている。明朝体部分を一文字下げた方が見やすいだろう。インデントは市

◎配列は解説者名の五十音順とし、同一解説者内ではキーワードの五十音順とした。

◎解説者 ()内は新旧関係機関など

有木太一(本書編者)

鈴木一正(元国文学研究資料館)

深井人詩(元早稲田大学図書館/本書創始者)

増井ゆう子(国文学研究資料館)

水村里都代(東京農業大学第一高等学校・中等部)

編者略歴

有木 太一（ありき・ふとし）

1968年生、早稲田大学第二文学部卒。深井人詩氏に師事して、在野の書誌研究者となる。2016年版から中西裕氏のもと『書誌年鑑』の編集に加わり、中西氏が勇退した後、編集作業を引き継いだ。「最近の書誌図書関係文献」（レファレンスクラブHP）毎月連載。

書誌年鑑 2020

2020年12月25日 第1刷発行

編 集／有木太一

発 行 者／山下浩

発 行 行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <http://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／株式会社平河工業社

©ARIKI Futoshi 2020

不許複製・禁無断転載

<落丁・乱丁本はお取り替えいたします>

(中性紙三層クリームエレガ使用)

ISBN978-4-8169-2856-7

Printed in Japan, 2020